

科目名	解剖学ⅢA				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	3階基礎医学実習室
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎である。本講義では、運動器系の基礎となる骨と関節について、講義や小グループによる演習を行って学習する。								
一般目標	①骨の名称や部位名など骨に関する基礎知識を習得する。また、各骨の構造の特徴など基本的構造について知識を習得する。 ②頭部、四肢、体幹に存在する関節の名称と構造の概要について知識を習得する。								
テキスト 参考書等	教科書:プロメテウス解剖学コア アトラス 最新版 (医学書院) /PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版(南江堂) 参考書:解剖学講義 南山堂、系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) ・骨の構造、名称、部位名称、特徴を覚えることができる。また、骨模型を模写できる。 ・関節の構造、名称を覚えることができる。		
技術(精神運動領域) ・骨模型を使用して、名称、部位名称を説明できる。		
態度(情意領域) ・授業に意欲的に参加できる。 ・課題(指定された骨をスケッチブックに模写する)を完成し、提出できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	解剖学総論(東野)	骨解剖を学ぶにあたり基礎的な医学的用語を理解し説明できる。
2	骨学総論(骨格系)(東野)	骨の構造や発生について総論的に理解し説明できる。
3	全身骨格(東野)	骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を説明できる。
4	骨と関節1(鎖骨・肩甲骨)(東野)	鎖骨、肩甲骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
5	骨と関節2(上腕骨)(東野)	上腕骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
6	骨と関節3(尺骨・橈骨)(東野)	尺骨・橈骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
7	骨と関節4(手の骨)(東野)	手部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
8	骨と関節5(胸骨・肋骨)(東野)	胸骨・肋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
9	骨と関節6(頭蓋骨)(東野)	頭蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
10	骨と関節7(寛骨)(友原)	寛骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
11	骨と関節8(大腿骨・膝蓋骨)(友原)	大腿骨・膝蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
12	骨と関節9(脛骨・腓骨)(友原)	脛骨・腓骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
13	骨と関節10(足の骨)(友原)	足部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
14	骨と関節11(椎骨・仙骨・尾骨)(友原)	椎骨・仙骨・尾骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
15	まとめ(友原)	骨解剖学(総論、上肢、下肢)について復習し、各部位を説明できる。また、課題を完成させることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫、友原 望美		実務経験紹介	病院勤務において、骨・関節の治療に携わった経験あり(東野、友原)。	

科目名	解剖学ⅢB				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。本講義では、運動器系の基本となる筋について学習する。								
一般目標	①骨格筋の一般的な構造と機能についての知識を習得する。 ②人体の主要な骨格筋について、その構造(起始・停止、走行、神経支配など)を知り、その作用についての知識を習得する。								
テキスト 参考書等	教科書:プロメテウス解剖学 コアアトラス 最新版(医学書院)/PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版(南江堂) 参考書:解剖学講義(南山堂)/系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) ・筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配を覚え、筋模型で説明できる。 ・筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	筋学総論、運動方向の名称(石丸)	・筋組織の種類や特徴、骨格筋の基本的構造について説明することができる。 ・骨格筋の生理的作用や筋による運動方向などの基本的作用について説明できる。
2	肘の筋(石丸)	・肘関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。
3	肩甲上腕関節の筋(石丸)	・肩甲上腕関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。
4	上肢帯の筋(石丸)	・上肢帯の各筋の名称や構造について説明することができる。
5	手外在筋①(石丸)	・手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
6	手外在筋②(石丸)	・手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
7	手内在筋(石丸)	・手内在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
8	内・外寛骨筋(友原)	・内・外寛骨筋の各筋の名称や構造について説明することができる。
9	深層外旋六筋(友原)	・深層外旋六筋について各筋の名称と構造について説明することができる。
10	大腿前面の筋(友原)	・大腿前面の各筋の名称や構造について説明することができる。
11	大腿後面、内側の筋、演習(友原)	・大腿後面、内側の各筋の名称や構造について説明することができる。
12	下腿前面、外側面の筋(友原)	・下腿前面、外側面の各筋の名称や構造について説明することができる。
13	下腿後面の筋(友原)	・下腿後面の各筋の名称や構造について説明することができる。
14	足底、背部、腹部の筋(友原)	・足部、背部、腹部の各筋の名称や構造について説明することができる。
15	顔、頸部の筋(友原)	・顔、頸部の各筋の名称や構造について説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也、友原 望美		実務経験紹介	病院勤務において、筋の治療に携わった経験あり(石丸、友原)。	

科目名	解剖学ⅢC				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	治療室
授業概要	医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この実習では、以下を目標に学習する。								
一般目標	①評価・治療の指標となる骨を正確に触察できる技術を習得する。 ②筋を正確に触察できる技術を習得する。								
テキスト 参考書等	【教科書】機能解剖学的触診技術 第2版 上肢/下肢・体幹 (メジカルビュー社) 【参考書】基礎運動学(医学書院) プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版 医学書院								

到達目標		
知識(認知領域) ①筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配・走行を覚え、筋模型で説明できる。 ②筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。		
技術(精神運動領域) ①筋の走行を正確に触診することが出来る。 ②患者に不快感を与えない触り方が出来る。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・患者に不快感を与えない立ち居振る舞いが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	触察:オリエンテーション(石丸)	あらゆる運動機能系評価の基礎となる骨・筋の触診について、その概要・意義を理解することができる。
2	触察:上肢の骨(石丸)	上肢骨のランドマークを触診することができる。
3	触察:上肢帯の筋(石丸)	上肢帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
4	触察:上肢の筋(石丸)	上肢の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
5	触察:前腕の筋(石丸)	前腕の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
6	触察:手指の筋(石丸)	手指の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
7	触察:頸部の筋(石丸)	頸部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
8	触察:下肢の骨・靭帯(友原)	下肢骨のランドマーク、靭帯を触診することができる。
9	触察:骨盤帯の筋(友原)	骨盤帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
10	触察:大腿の筋(友原)	大腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
11	触察:足部の骨(友原)	足部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
12	触察:下腿の筋(友原)	下腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
13	触察:体幹の筋(友原)	体幹の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
14	触察:まとめ(石丸)	実技試験に備え上肢の筋について復習し、理解を深めることができる。
15	触察:まとめ(友原)	実技試験に備え下肢の筋について復習し、理解を深めることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也、友原 望美		実務経験紹介	病院勤務において、筋の治療に携わった経験あり(石丸、友原)。	

科目名	リハビリテーション概論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	リハビリテーションの歴史、理念について学習する。障害モデルと生活機能モデルを身近な方を例に挙げながら整理し、リハビリテーション専門職とチームアプローチなどについて学習する。リハビリテーションに関連する社会保障制度や法規について学習する。								
一般目標	リハビリテーションの理念と、リハビリテーション医療の特徴を理解する。障害モデルと生活機能モデルを理解する。リハビリテーション専門職とチームアプローチについて理解する。基本的な社会保障制度の概要について修得する。								
テキスト 参考書等	教科書 リハビリテーション概論のいろは(南江堂) 参考図書 ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改訂版 (中央法規出版)								

到達目標		
知識(認知領域) ・リハビリテーションの理念、4つの分野を説明できる。 ・リハビリテーション医療の特徴を説明できる。 障害モデル図、生活機能モデル図を書ける。 ・チームアプローチとは何か説明できる。代表的なリハビリテーション専門職とその役割について説明できる。 ・各制度の概要について基本的な説明をすることができる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	リハビリテーションの意味・歴史・定義等	リハビリテーションの本来の意味を説明するためのキーワードを言うことができる。 リハビリテーション理念に影響を与えた国際的な活動を4つ以上挙げ、簡単に説明することができる。
2	リハビリテーションの必要性①	リハビリテーションの4つの分野、リハビリテーション医学・医療の特徴、地域リハビリテーションの定義を言うことができる。
3	リハビリテーションの必要性②	障害モデル(ICIDH)図が書ける。 ICIDHの問題点があげられる。
4	リハビリテーションの必要性③	ICIDH→ICF改定のポイントをあげられる。 ICFモデル図(簡年版)が書ける。
5	リハビリテーションとチーム医療	チームアプローチとは何か説明できる。 チームアプローチの促進因子を挙げることが出来る。
6	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学に関連する人体の仕組みを説明できる。
7	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学について説明できる。 自助具、歩行補助具、車いす、コミュニケーション支援機器、ロボティクスについて説明できる。
8	栄養とリハビリテーション	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割を説明できる。 消化や吸収について説明できる。
9	社会保障制度とは 社会福祉とは	社会保障とはなにか説明できる。 福祉とはなにか説明できる。
10	児童福祉、社会保険、公的扶助	児童福祉の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 社会保険と公的扶助の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。
11	障害者福祉1	障害を取り巻く概念(ICF、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど)を説明できる。
12	障害者福祉2	障害者総合支援法を中心に、障害者福祉の概要を説明できる。 障害者支援法・障害者手帳で利用できるサービスを列挙することができる。
13	医療保険制度	日本の医療制度の概要を説明できる。
14	介護保険制度	高齢化の現状、高齢者の現状について説明できる。 介護保険の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 介護保険サービス以外の高齢者サービスを列挙できる。
15	地域包括ケアシステム まとめ	自助、互助、共助、公助について説明できる。 事例を通じ、現在日本の社会保障制度下で利用できる制度やサービスを列挙できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	藤井 昭宏		実務経験紹介	理学療法士として10年間、急性期病院で勤務	

科目名	リハビリテーション医学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	リハビリテーション医学についての一般的な知識を総合的に学習する。 代表的な疾患について障害像を把握し、各疾患のリハビリテーションの基本について学習する。								
一般目標	リハビリテーション医学の概要について説明できる。 主要な対象疾患に関するOT、PTとして必要かつ基本的な評価と治療に関する知識を習得する。								
テキスト 参考書等	適宜資料を配布する。								

到達目標		
知識(認知領域) リハビリテーション医学についての一般的な知識について総合的に説明ができる。 代表的な疾患について障害像を把握し、各疾患のリハビリテーションの基本について説明することができる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	リハビリテーション医学総論	リハビリテーション医学(定義・ADL・障害・チーム医療・ステージ・運動療法・物理療法・義肢装具・地域リハ・職業リハ・リスク管理・廃用症候群・生理学検査・画像検査・制度)全般について説明できる。
2	運動障害(障害各論)	運動麻痺・筋力低下・関節可動域制限・運動失調・姿勢歩行障害について説明できる。
3	内部障害(障害各論)	内部障害・呼吸器障害とその評価・循環器障害とその評価・代謝障害とその評価について説明できる。
4	高次脳機能障害(障害各論))摂食嚥下・言語機能障害(障害各論)	主な高次脳機能障害について説明できる。 摂食嚥下・言語機能障害について説明できる。
5	心理社会的障害(障害各論) 排泄障害・意識障害(障害各論)	心理的社会障害・うつ状態・易怒性について説明できる。 排泄障害・意識障害について説明できる。
6	心理社会的障害(障害各論)	心理的社会障害・うつ状態・易怒性について説明できる。
7	脳血管障害(疾患各論)	脳血管障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血)とそのリハビリテーションについて説明できる。
8	脳外傷・低酸素脳症・ 脳腫瘍・水頭症(疾患各論)	脳外傷・低酸素脳症・脳腫瘍・水頭症とそのリハビリテーションについて説明できる。
9	脊髄損傷(疾患各論)	脊髄損傷とそのリハビリテーションについて説明できる。
10	神経・筋疾患(疾患各論)	神経筋疾患(PD・MS・MG・GBS・ALS)とそのリハビリテーションについて説明できる。
11	神経・筋疾患(疾患各論)	神経筋疾患(SCD・PM・DM・MD・MSA)とそのリハビリテーションについて説明できる。
12	骨・関節疾患(疾患各論)	骨・関節疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。
13	呼吸器・循環器疾患(疾患各論)	呼吸器・循環器疾患(狭窄症・心筋梗塞・心不全・不整脈)とそのリハビリテーションについて説明できる。
14	小児・スポーツ・高齢者疾患ほか(疾患各論)	小児・スポーツ・高齢者疾患ほか(熱傷・障害者スポーツ・精神疾患生活習慣病など)とそのリハビリテーションについて説明できる。
15	まとめ	授業で学習してきたリハビリテーション医学全般について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	島本 祐嗣		実務経験紹介	病院勤務において、リハビリテーションに携わってきた経験あり。	

科目名	運動器障害学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室
授業概要	運動器障害とは、骨・関節・筋肉・腱・靭帯・神経など身体を支えたり動かしたりする組織の障害である。いわゆる整形外科疾患として理学療法・作業療法の対象となる機会も多い。この授業では、代表的な整形外科疾患の病態と治療法の概要について学習する。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 各種整形外科疾患の病態に関する知識を修得する。 各種整形外科疾患の治療法の概要について知識を修得する。 								
テキスト 参考書等	リハビリテーションのための整形外科の歩き方(南江堂)								

到達目標

知識(認知領域)		
・授業で取り上げた疾患および治療法について説明できる。		
技術(精神運動領域)		
・なし		
態度(情意領域)		
・真摯な態度で授業等に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	整形外科総論 整形外科は運動器を扱う科	<ul style="list-style-type: none"> 整形外科の定義について説明できる。 代表的な運動器疾患の特徴について簡潔に説明できる。 運動器疾患の分類について説明できる。
2	骨疾患① 骨折を軸に骨疾患を考える	<ul style="list-style-type: none"> 骨の構造、骨のリモデリング、骨の成長について説明できる。 骨折の分類について説明できる。 開放骨折、病的骨折、疲労骨折について説明できる。
3	骨疾患② 骨折の治療1	<ul style="list-style-type: none"> 骨折治療の流れと骨折の保存療法の概要について説明できる。 機軸遠位端骨折の分類と保存療法の概要について説明できる。 人名のついた骨折の骨折部位を答えることができる。
4	骨疾患③ 骨折の治療2	<ul style="list-style-type: none"> 骨折の手術療法の概要について説明できる。 骨折の代表的な合併症について説明できる。
5	骨疾患④ 骨折の治療3	<ul style="list-style-type: none"> 偽関節と骨壊死について説明できる。 舟状骨骨折の概要について説明できる。 大腿骨近位部骨折の概要と治療原則(リハビリテーション含む)について説明できる。
6	変形性関節症① 総論 変形性膝関節症	<ul style="list-style-type: none"> 変形性関節症の病態と治療原則について説明できる。 変形性膝関節症の病態と治療の概要について説明できる。
7	変形性関節症② 変形性股関節症	<ul style="list-style-type: none"> 変形性膝関節症の病態と治療の概要について説明できる。
8	関節リウマチ	<ul style="list-style-type: none"> 関節リウマチの病態と治療の概要について説明できる。
9	靭帯の外傷・疾患	<ul style="list-style-type: none"> 捻挫・脱臼の病態と治療の概要について説明できる。 足・膝関節靭帯損傷の病態と治療の概要について説明できる。 半月板損傷の病態と治療の概要について説明できる。
10	腱の外傷・疾患	<ul style="list-style-type: none"> アキレス腱損傷の病態と治療の概要について説明できる。 手指屈筋腱損傷の病態と治療の概要について説明できる。 肩関節周囲炎・腱板損傷の病態と治療の概要について説明できる。
11	末梢神経および脊椎・脊髄の疾患①	<ul style="list-style-type: none"> 末梢神経損傷の一般症状と分類について説明できる。 各末梢神経損傷に生じやすい症状と変形について説明できる。 絞扼性神経障害の誘発試験について説明できる。
12	末梢神経および脊椎・脊髄の疾患②	<ul style="list-style-type: none"> 頸椎椎間板ヘルニア・腰椎椎間板ヘルニアの病態・症状について説明できる。 腰部脊柱管狭窄症の病態・症状について説明できる。 腰椎変性すべり症・腰椎分離すべり症の病態・症状について説明できる。
13	小児整形外科	<ul style="list-style-type: none"> 骨端症の病態・症状について説明できる。 発育性股関節形成不全の病態・症状・治療法について説明できる。 筋性斜頸・先天性内反足の病態・症状・治療法について説明できる。
14	スポーツ傷害	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ傷害の概念について説明できる。
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストを通して運動器疾患のポイントをまとめることができる。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	山本 悟		実務経験紹介	理学療法士として約39年間、整形外科関連医療施設に勤務(現在、非常勤勤務)	